



スランプ

スタジオジブリ（宮崎駿監督）に「魔女の宅急便」（1989年）という作品があります。私は、娘が幼い頃にこの映画のビデオを購入し、娘と一緒に何度も見ました。

この作品は、13歳でひとり立ちしなければならない魔女の少女を主人公として、子供から大人になろうとする少女期の心を描いたもので、大人から子供まで、見る者の心に、ほろ苦い青春の味と不思議な懐かしさを感じさせる作品です。

町並みや登場人物は無国籍に設定され、視聴者は擬似現実の中に引き込まれ、登場人物に感情移入しながら、見ているうちに、まるで自分がその町の住人になったかのような錯覚を覚えます。

物語の中で魔女である少女は、それまでは当たり前のように空を飛んでいたのですが、ある日、突然「スランプ（不振・不調）」に陥ります。

魔女の少女はその後、以前偶然出会った画家の女性に悩みを打ち明けます。その時その女性も画家としてのスランプに陥っていて、魔女の少女がスランプについて尋ねると、以下のような言葉が返ってきます。「描けないときはね・・・、描いて描いて描きまくる・・・。それでも、どうしても描けないときは、描くのをやめる。とことん描かずに、・・・描きたいって思うまで描かない・・・。」この言葉をきっかけに魔女の少女は明るさを取り戻し、その後スランプから脱していくのです。

スランプというと、打撃不振に陥った野球選手や記録が伸び悩んでいる水泳選手など、真っ先にスポーツ選手を思い浮かべる方も多いと思います。しかし、魔女でなくても、画家や芸術家やスポーツ選手でなくても、誰にでも、普段当たり前のようにしていること、できていること、無意識でやっていることなどがあると思います。また、自分が持っている力を発揮して、努力しながら取り組んでいることもあるでしょう。人生を豊かにする、わくわくするようなことに打ち込んでいる人もいのではないでしょうか。そんなことが突然できなくなったり、うまくいなくなったり、あるいは、好きだったはずのことが苦痛に感じられるようになったり、意欲を失ってしまったり等々・・・。スランプは誰にも訪れるもので、そのときの対処法や心構えによって、それ以後の流れは大きく変わるものです。

私にも、日々打ち込み、努力し、継続していることがあります。自分の意思で好きで取り組んでいることでも、スランプに陥ることはあります。そのたびに、「まず、やれるだけやってもがく。」それでもだめなら「やりたいと思うまでやらない。」（視点を変えて他のことに取り組んでみる）そんなやり方で、苦しい時期を乗り切ってきました。中には、もうやりたいと思わなくなってしまったこともあります。それは、本当に好きなことではなかったのかも知れません。

仕事の面では、「やらない」わけにはいかないこともあり、そういう意味でプロの芸術家やスポーツ選手のスランプは、より深刻なものでしょうが、私たちの日常の中では、心がけとして参考になる考え方だと思います。

郡山小学校の子供たちにも、これから成長していく中で、個々に様々なスランプが訪れることでしょう。その都度簡単には諦めず、そして、時には立ち止まって自分自身を見つめ直しながら、前へ進んでいってほしいと思っています。

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2023年1月27日（ ）年（ ）組 児童氏名

※匿名でも結構ですが、御連絡が必要な場合等を考え、記名していただくとありがたいです。
※担任に御提出いただいても、校長室前のポストに直接入れていただいても、校長に直接手渡していただいても、いずれでも結構です。（校門前のポストではありません！ご注意ください☺）
※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）